

悠久の京を訪ねて Part VI Vol.2



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

京は古より人々が集い、その気候・風土の中、人々の生活が営まれてきました。

京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により、縄文・弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。

私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのか、出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

Part VIでは京都府内で見つかった、ものづくりに関する遺跡を紹介します。

埴輪をつくる

■ 聖域を区画する埴輪

埴輪は古墳の上に立て並べられた焼き物です。土器と同じく粘土で造形したもので、古墳時代前期には地面に浅いくぼみを掘って焼かれていました。筒形の円筒埴輪や、家や蓋、武器、人物、動物などの形象埴輪があります。

埴輪は、単に墳丘を飾るためではなく、被葬者が静かに眠る墳丘へ邪悪なものが侵入しないように埋葬空間という聖域を区画する目的で立て並べられたと考えられています。

■ 数少ない埴輪生産の現場を発見！

古墳時代中期に入ると埴輪は須恵器と同じように丘陵斜

面に掘り込んだ窖^{あな}で焼かれるようになりました。

京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、京都府内でも古い埴輪窯である木津川市^{しゅうにん}上人ヶ平埴輪窯群^{ひら}と同



上人ヶ平埴輪窯跡で焼かれたいろいろな埴輪

上人ヶ平・瓦谷埴輪窯群

市瓦谷埴輪窯群の調査を行いました。

これらの窯跡群では丘陵斜面に5世紀後半の埴輪窯がそれぞれ3基並んで造られており、円筒埴輪のほか家や盾、馬などの形象埴輪が生産されていました。

とくに上人ヶ平埴輪窯跡群では、隣接する上人ヶ平古墳群の調査も行った結果、6基の古墳に、この埴輪窯で生産された埴輪が使われていることが分かりました。現在のところ同じ特徴をもつ埴輪が上人ヶ平古墳群以外では見つからないことから、埴輪窯はこの古墳群のために造営されたと考えられます。

上人ヶ平埴輪窯跡群は、小規模ですが古墳群と一体で営まれたと考えられ、埴輪生産に窖が導入されたころの様相を示す貴重な資料になりました。



上人ヶ平遺跡の埴輪生産の様子